

## 令和7年度 学校評価

### 1, 本年度重点的に取り組んだ教育目標

- (ア) 子供たち一人一人の育つ姿をしっかり捉え、教職員間で共有しながら個々の育つ場面を見つけて成長につなげる。
- (イ) 教育内容の見直し、3年間の中で年齢に応じたカリキュラムを計画し子どもたちの育ちにあった教育に取り組んだ。

具体的な教育活動の取り組みとして

- ① 製作活動や言葉遊びは3年間を通してカリキュラムを編成し、取り組む。
  - ② 年少組から体操あそびを取り入れ体を柔軟に使えるよう工夫しながら取り入れた。
  - ③ 年間を通して週に1回英語のネイティブ教師に来園してもらい体を動かして遊びながら英語に親しむ時間を設け、外国人になれ、英語の音になれ就学後の英語の取り組みにつなげるようにする。
  - ④ 芝生の築山を整備し自然豊かな環境を作るとともに築山を上ったり下りたりすることで遊びながら体幹やバランス感覚を養うことができるようにする。土の園庭では走ったり集団で遊んだり、遊具や砂場などを活用して年齢に応じた遊びを広げていく。
  - ⑤ 絵本に触れる機会として年長組を対象に週に一回絵本の貸し出しを行う。各教室にも自由に本を手にとることができるスペースを設ける。
- (ウ) 教員の研修の機会を多くとり教育の質の向上を図る

### 2, 教職員による取り組みの評価

- (ア) 教職員全体で子どもの教育に携わり、保育後の会議では、子どもの育ちを共有し、個々が伸ばせるよう向き合った。個別の対応が必要な場面が重なってしまったときには、園長、主任も一緒になって職員同士が連絡を取りながら対応できた。
- (イ) 具体的に今年度取り組んだ教育内容の成果として
  - ① 今までの教員の経験を活かし、3年間通してのカリキュラムを作り、検討を重ねた。  
今後は、それぞれの担当が、指導するにあたってさらに指導案を研究して行くことが必要になる。
  - ② 体操担当者と担任の先生で年少組からの体育あそびを行うことで、子どもたちの動きが大きくなりあそびの幅が増えた。園庭の砂で遊ぶだけではなく、友達と一緒に走って遊んだり集団遊びを先生も交えて行ったりしている姿が見られた。
  - ③ 英語教育については、子どもたちが英語に触れる機会を作ることができた。外国人教師にも慣れ自然と外国人講師に声をかける姿が見られた。区主催の小学校で行われる英語の体験会にも参加し積極的に取り組む子どもたちの姿が見られた。
  - ④ 築山と園庭の自然環境を豊かにすることで昆虫に興味を持ち探求する姿勢が養えたり、作物を積極的に育て、世話をして収穫する経験ができた。野菜を育てる経験から給食での苦手な野菜も挑戦する姿が見られた。
  - ⑤ 絵本がすぐに手に取れる環境を作ることで、子どもたちが、絵本に触れる機会が増えた。
- (ウ) 学年の教員の構成を経験年数の長い教諭と経験年数の浅い教諭で組むことで全体の教員の質の向上につなげられた。研修する機会も園内で作り教員全員で共有した。保育に必要な知識や技術と子供の育ちにあった教育について学ぶことができた。教員同士お互いに助け合いながら仕事をする事ができてよい環境が出来上がっていた。

### 3, 保護者等学校関係者による取り組みの評価

- ① 先生たちの子どもへの声掛けや見守りで子どもたちが安心して幼稚園で過ごしている様子感じられた。園児の名前も担任以外の先生も覚えてくれていて担任の先生以外の先生もかかわってくれていることがわかる。
- ② 降園時に担任の先生と子どもの様子をもっと話せたらいいと思うが、人数も多いのでなかなか毎日話すことができない。
- ③ 行事が多くあり、子供たちの成長を感じる。運動会や作品展は、家族全員で来られてよかったが、お遊戯会や卒園式は、両親のみの参加で人数制限があったので祖父母も参加出来たらよかった。音楽会は祖父母だけの招待だが父母も招待してほしかった。
- ④ 幼稚園でできたことに自信をもって家庭でも一人で取り組む姿が見られた。たくさん先生のほめてくれ伸ばしてくれたのを感じた。
- ⑤ 毎日たくさん体を動かして活動するので年々体が丈夫になるのを感じた。マラソンや園外保育でも体力がついた。一緒に歩いていても疲れることなくよく歩くようになった。
- ⑥ 文字やの読み書きや絵の描き方や運動などできることが自然と増えていき子どもの成長を感じられた。数字などにも親しめると小学校に入学してからもいいと感じた。
- ⑦ 英語や体操、言葉遊びなど楽しみながら触れているのを感じた。外国人の先生に挨拶する姿を見て驚いた。
- ⑧ 行事の主役を順番にさせてもらっているが、行事によっては親の参加がないものもあるのでさみしく思った。
- ⑨ 天気のいい日は自転車でのお迎えが多く園の前に自転車を駐輪するのが大変になる。
- ⑩ 遊具がなくても友達同士で遊ぶのが上手になった。
- ⑪ 役員の仕事をクラスで分担してできる仕組みがあり参加しやすく良かった。
- ⑫ 運動会など子どもがいつの間にかにできるようになっていることが多くありうれしかった。

### 4, 第三者学校関係者による取り組みの評価

あさひ幼稚園では、いろいろな取り組みをしているので、広くその取り組みを知ってもらったほうがいいと思うが、周囲への発信があまりないのが残念に思う。個人情報との兼ね合いで難しいという園側の思いも理解できるが、できる範囲で伝えていくべきだと思う。

バスにおける運転手の交代等で一昨年は一時期心配な面もあったがそれも解消され今は安定しているようだ。

芝生の山や園庭の草木など手入れが大変なものがたくさんあるが、子どもたちの遊ぶ環境としては、適していると思うので今後も大切にしていってほしい。また、鉄棒などの運動用具も毎年新しくなってきたので今後も老朽化したものを定期的に交換していけるとよい。園舎の改修等も計画が進んでいるようなので経営面での安定も保ちつつ、子どもたちの過ごす園舎がきれいになっていくのはよいことだ。教育内容は今までのものが引き継がれているということだが、英語など時代に合わせたものも取り入れながら幼児期にあった教育をしている。子どもたちは、いつ訪れても元気で素直な子が多い印象を受ける。

## 5. 今後の取り組みについて

来年度も引き続き教職員の研鑽を重ね子供の成長につなげたい。教員全員の子どもへの指導力や園児への寄り添い方を向上させ、職員全体で子どもの活動や遊びの幅が広がるよう努めたい。

子どもたちの教育活動は、より充実するようそれぞれ年齢の育ちに必要な行事や体験を取り入れ子どもたち自らが楽しんで取り組めるカリキュラムにしていきたい。

また、子どもたちが受け身となる一方通行の教育だけでなく4歳児後半くらいからは、実際に自ら考えて動いたり製作活動をするような取り組みを考えていきたい。

保護者への行事の連絡は混乱しないよう毎月のお知らせと一緒にまとめて伝える。動画写真も園限定のアプリを利用して園での子どもたちの様子を実際に見てもらえる機会をつくり、家庭と連携しながら子供の成長を見守っていきたい。